

自己評価及び外部評価結果

平成25年度

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1493700197	事業の開始年月日	H24年2月1日	
		指定年月日	H24年2月1日	
法人名	日本アメンティライフ協会			
事業所名	花物語 いちがお			
所在地	(〒225-0014) 横浜市青葉区荏田西1-12-11			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	H25年10月11日	評価結果 市町村受理日	平成26年2月12日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>私たち職員は会社の理念である、「安心・安全・清潔」をベースに笑顔のある生活を送って頂き、また施設の理念でもある、「その人らしさを大事に」を常に考え利用者様中心の穏やかな生活を出来るよう支援して行きます。また、地域に溶け込み、地域の一員として活動して行きます。</p>
--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成25年11月12日	評価機関 評価決定日	平成26年1月27日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>【事業所の概要】 「花物語いちがお」は田園都市線・市ヶ尾駅から徒歩で10分程、緩やかな坂を上った住宅地に位置する。RC造4階建てで耐震性に優れている。1階は玄関と事務所、2～3階がグループホームになっている。4階は現在、空室となっており、事業所の行事や研修などに使用している。元社員寮を改装した建物のため、すべてを高齢者向けのバリアフリーにするには、構造上難しい部分がある。共有空間であるリビングもあまり広くはないが、そのことが職員と利用者、また利用者同士が近い距離で接していただけることに繋がっているようで、リビングは常に、にぎやかである。利用者やスタッフは明るい方が多く、家庭的な雰囲気である。</p> <p>【職員・家族の意見を積極的に反映する姿勢】 事業所は、家族や職員からの意見に迅速に対応するよう努めている。実績として、わかりにくかった事業所の場所を地域の人にも知ってもらえるようにと、管理者自らが木製の大きな看板を手作りした。これらをはじめ、施設っぽく感じられるハード面での不利な部分に、少しでも家庭的な暖かみを出せるよう、様々な努力をしている。建物入口には木製のベンチを置き、プランターなどで花を飾ったりしている。玄関フロアには、ミニテーブルの台に布を敷き、メインの季節の生花を飾り、洗面台やその周辺にも花で彩りを出している。玄関フロアの広々とした空間を活用し、利用者が気分転換を図れるよう、アジアン風の喫茶コーナーを作る計画を現在進めている。 開設から1年半が経ち、外出の機会やイベント、ボランティアなども少しずつ増やすなど、サービスの向上に向けて日々取り組んでいる。利用者家族は近所に住んでいる方が多く、日頃から面会の回数も多い。そのため職員と家族のコミュニケーションは良好である。家族には、毎月、居室担当者が「いちがお通信」を送付しているほかにも、3か月毎に「意見書」用紙を送り、些細なことや言いにくいことも意見を出しやすいよう工夫している。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

事業所名	花物語 いちがお
ユニット名	いちがお 2F

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に根ざした事業所作りを基本に、理念にもある「その人らしさを大事に」を常に考え実践につなげています。	事業所独自の理念は開所時に作成し、玄関フロアに掲示している。管理者はスタッフ会議や申し送り、日常の支援の中で話をし、全職員が共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事や包括等の行事を把握し積極的に参加し、また運営推進会議時に情報収集し参加の旨を伝えています。 民生委員の協力も得られています。	荏田西自治会に加入し定期総会に参加している。町会の清掃などに、利用者も職員と一緒に参加し、地域の一員として交流している。民生委員の紹介で、音楽ボランティアが9月からイベント時に来訪している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会を通し近隣との協力関係を積極的に行い、また施設を知ってもらう為、見学会をオープンにしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催し施設での生活の様子、出来事を報告しています。報告だけではなく、参加者の方々から意見、要望を頂きサービス向上に努めています。	運営推進会議は2ヶ月ごとの開催が定着し行われている。自治会長、自治会法人部長、民生委員、地域包括支援センター職員、家族などの参加メンバーで、運営状況や活動内容の報告を行い、意見交換や地域の情報交換をしている。議題として「災害時の連絡網について」などがある。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括の職員にも運営推進会議に出席して頂き情報を共有して頂き意見交換をしています。	市や区の担当職員との連携はあまりとれていない。運営推進会議議事録は現在、郵送しているが、担当者顔なじみの関係を築けるよう、今後は直接持参する予定である。緑区・青葉区のグループホーム連絡協議会に加入している。	昨年度の目標達成計画の取り組みはまだ途中です。今後も継続し、区の担当職員と日ごろから連絡、相談ができるよう、顔見知りの関係を築いていくことを期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	本人らしく自由に生活をして頂いています。 事業所内のミーティングでも理解を深め随時研修を行っています。また玄関の施錠に関しては事務員がいる時に関しては施錠していません。	身体拘束防止については、年に1回、事業所内で事例を使い研修をしている。言葉による拘束については特に注意している。1階の玄関は事務所に人がいる時のみ開錠している。各フロアの出入り口は、建物の構造上から安全面を重視し、家族に了承を得て施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については、常日頃ミーティングで指導しています。 研修も行っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後も外部研修の参加を含め、職員間で話せる場を設けて行きます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご入居の際の契約は、家族が理解されよう分かりやすく説明し、不安が無いように入居出来るように対応しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時はその都度、家族とコミュニケーションを図り意見、要望を頂き解決に努めています。その内容は申し送り時、連絡ノートを活用し伝えていきます。面会の少ない家族には、定期的に意見書を送り対応しています。意見箱の活用もしています。	家族会は昨年12月にクリスマス会と合わせて開催した。今後も毎年、定期的に開催する予定である。家族の面会時など、日頃から意見を聞いているが、直接言いにくいことや忙しい方の意見も汲み取れるよう、家族には「意見書」を提出してもらっている。職員の名札着用や事業所の看板の改善など、上がった要望には迅速に対応するように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回必ずスタッフ会議を開催し報告・連絡・相談を行っています。スタッフの意見、要望を聞き出来るだけ反映できるように努め、風通しの良い職場作りを目指しています。	毎月行うスタッフ会議や日々の申し送りの際に意見や提案を聞き、話し合っている。議事録は職員更衣室に置き、欠席者も情報共有できるようにしている。法人として設置している職員用「気づきBOX」を活用し、エリアマネージャーが定期訪問の際にも職員の意見を聞いている。玄関フロアのスペース活用についての提案があった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	仕事の効率化を図る為、備品整備を行い職場環境を整えています。職員の処遇改善についても、給料水準の見直し等を行いました。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の研修等を行い個々にスキルアップ出来る様実施しています。また会社で研修センターを設け、新人研修、スキルアップ研修を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	社内の他施設の研修を設けていますが、今現在は他施設への研修は行っていない状態です。今後は他施設へ研修できるように時間を作り実施して行きます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に十分なアセスメントをとり、スタッフ全員に把握して頂き入居後の生活が安心安全に生活して頂ける様支援しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の要望、家族の要望を十分に理解・把握し本人にとってどのような生活が一番良いかを考えながら関係を築いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族、入居者様が何を望んでいるか見極め計画を立てています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人らしい生活、普段の生活をして欲しい。その為には出来る事は自分でして頂くようお願いしています。利用者様は人生の先輩である事を踏まえて行動をしています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在の状況を家族に説明し、利用者様の情報を共有し利用者様・家族の要望を聞き支えています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間は基本的に決められていますが、家族の事情によっては時間外も可能な事は説明しております。外出・外泊も積極的に行って頂ける様をお願いしております。	家族と散歩に行ったり、行きつけの美容院や外食などに出かけたりしている。以前の自宅へ泊りに行く方や墓参や故郷に家族と旅行した事例もある。友人が来訪した時は、ゆっくりくつろいでもらえるよう歓待している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションは常に皆と一緒に出来るように（散歩・トランプ等）声掛けを行っていますが、個々の気持ちを尊重しながら支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了されても、家族からの相談があった場合は対応しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者様の個々の思いを傾聴し出来る事は実施しております。難しい部分に関しては、家族と相談、またはミーティングを通して解決に努めております。	現在は、意向の把握が困難な方はいない。普段の会話や家族からの情報で、個々の思いを把握するように心掛けている。思いを伝える事に遠慮がちな方には、声かけの方法を変えてみたり、素振りや表情から汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケース記録と一緒に、個人の経歴等を一緒にファイルし、情報を共有し今後のサービスの参考にしております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々申し送りを行い、情報の共有を行っております。また申し送りノートも活用し、漏れのないよう実施しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	主治医・看護師・ケアマネ・介護師等、様々な意見を反映し介護計画を作成しています。	居室担当制とし、スタッフ会議でモニタリング、評価を行い、医師の意見や家族の要望を反映させて介護計画を作成している。通常は短期目標3ヶ月、長期目標6ヶ月ごとに再度アセスメントを行い、介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録においての変化等は、申し送り・連絡ノート・会議等で共有し常に改善しようと、介護計画の見直しに活かしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会の時間外の認可や体調不良にての通院対応は、必要に応じて支援、サービスを行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会・民生員を通じてボランティアの活動を推進しています。また地元の行事に参加しています。		
30	11	○かかりつけ医院の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られなかったり、かかりつけ医院と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週で往診対応をしております。また体調不良等の場合は隔週対応にこだわらず、その都度対応をさせて頂いております。	入居前のかかりつけ医や専門医には家族対応で受診している。家族からの受診報告は職員間で共有している。協力医療機関の往診は隔週ごと、訪問歯科は毎週で、希望により訪問マッサージを利用している方もいる。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は週2回対応されております。その中で利用者様の健康管理を行い、介護士からの情報・気づきを把握した中でドクターに報告し適切な往診を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は、病院関係者・家族と連絡を密にとり情報を把握し、また定期的なお見舞いを実施しています。退院時には立会い、今後のケアの部分で、病院関係者から情報収集しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に関しては、契約時に説明し早期に主治医と家族と連携しながら対応するように心がけています。	看取りや重度化の対象となる利用者は、現在のところはいない。現状では、設備面などから難しいと考えている。医療行為がなく希望があれば、家族と相談しながら、出来るかぎりの支援を行う方針である。職員研修はまだ行っていない。	今後は、利用者の状況変化に備えることが望まれます。特に事業所としての方針は、職員間で共有することが大切です。職員会議などで話し合い、全職員に方針が共有されること事を望みます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応に関しては、研修を行い周知徹底しています。また緊急の対応のマニュアルを作成し、皆が見える場所に掲示しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内に食料・水の備蓄をしている。職員には年2回の避難訓練を計画実施し非難方法、非常口の確認をしている。近隣の学生寮及び自治会を通じて協力を呼びかけています。	消防署の立ち会いの下、年2回の防災訓練を行っている。消火器、AEDの使い方などの講習や、各階ごとに異なる避難経路の指導を受けた。避難訓練には、自治会役員、民生委員、家族が参加している。有事の際には近隣の学生寮の方の協力が得られることになっている。水・食料などが備蓄されている。	次回に予定されている夜間想定避難訓練を、実現されることを望みます。また、様々な災害に備え、備蓄品の見直しと充実を再度、検討されることを期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	当施設の理念（その人らしさを大事に・尊厳を守る・安心して生活できる場所）を常に考え支援しています。	「その人らしさ・尊厳」は理念でもあり大切にしている。敬語を徹底することにはこだわらず、その人に合わせた声かけや接し方をしている。接遇研修は、事例と合わせて年に1～2回、実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お手伝いを頼んだり、レクリエーションに参加して頂く際は本人の意思決定を尊重した中で決めるよう支援して行きます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の日々の状態を把握しながら、利用者様のペースに合わせて、何をしたいかを気づき、考えて支援して行きます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度訪問美容を利用しています。また更衣時も、本人の意思決定に任せ好きな洋服を着て頂く様支援してます。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	本人が出来る範囲で食事の野菜切・盛り付け・食器洗い・食器ふきを手伝っていただいております。	業者から届く食材を、職員が調理している。男性の利用者も下膳を行うなど、利用者はできる事を職員と一緒にやっている。正月などには行事食が用意される。出前でちらし寿司を取ったり、誕生会はケーキでお祝いしている。ホットプレートでおやつや焼そばを利用者と一緒に作ることもある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量に関しては、日々摂取量を記入し、チェックしています。摂取量の少ない利用者様に関しては工夫し摂取して頂いております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員の声掛けにて誘導し口腔ケアを行っています。また週に1回訪問歯科により口腔内の診察を定期的に行っております。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者様の状態を把握した中で、その人に合ったサイクルを見つけ出し声掛け誘導を行っている。またカンファ等を活用し改善方法を考えています。	日中はトイレでの排泄を支援している。自立の方が多。「水分、排泄チェック表」で個々のパターンを把握し、必要な方には声掛け・誘導を行っている。夜間はポータブルトイレを使用する方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師・看護師等の連携で、薬で対応しています。また家族からの情報で、飲み物を飲む事で便秘が改善される事を聞き実践しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の際は声掛けを行い、必ず本人の意思決定で行っています。また、入浴の際は必ずバイタル測定を行い体調を見て入浴をしております。	入浴は基本的に2日に1回で、10時～16時頃までの間なら好きな時間に入浴できる。希望により毎日入浴する方もいる。様々な入浴剤を揃え、入浴を楽しめるように配慮している。入浴を好まない方には、様子を見て別の職員が誘ったり清拭やシャワーで対応したりしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転しない為、また夜安眠していただく為、適度なお昼寝をして頂くよう支援しています。また夜間安眠して頂くよう定期巡視を行い、室温・安全のチェックを行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	与薬時必ず二人で薬を確認し服薬時、名前・日付・何時の薬か？をチェックし服薬しております。またもう一人のスタッフは、与薬者を目で追ひ、本人に服薬をさせているかを必ず確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯干し・洗濯物たたみ・料理の準備等、本人の意志を確認しながら気分転換が出来る様支援しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	行事の予定を決めて、出来るだけ戸外での行動が出来る様支援しています。また近くの公園へ散歩をかねてコンビニで買い物をするよう支援しています。	散歩を兼ねて、近くのコンビニエンスストアに買い物に出掛けている。（多い方は週2～3回、少ない方は週1回）花見や自治会の祭り、地域包括センターの行事などには、車を利用している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っていた利用者様がいましたが、家族と相談しお預かりしています。時々散歩がてら買い物をする時は事務所より立替たり、若しくは本人のお金で買い物をされ自分で払って頂いております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設へ本人宛の電話があった場合は取り次いでいます。本人から電話の希望があった場合は事務所より電話をしています。 (携帯を持っている方もいます)手紙が届いた場合は本人に渡しております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を味わえる行事や、レクリエーションを行った時の写真はリビングに張り出し、皆さんで見られております。	居間兼食堂は、職員と利用者の距離が近いことで、会話も弾みやすく、にぎやかである。壁には行事の写真を掲示し、観葉植物を飾るなど温かい雰囲気作りに努めている。加湿器や空気清浄機を置いて感染症予防に配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	窓際にソファを置いて新聞を見たり、1Fの共用部分に椅子・テーブルを置き、周りには、観葉植物や生花を飾り、少しでも癒しになれるよう工夫しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内のレイアウトは本人、家族の要望に応じています。持ち込みに関しても制限はありません 「危険を伴う物(火器・貴重品)」に関しては例外で持ち込みを断る場合もある。	テレビや鏡台、パーソナルチェアなど各自が好みの家具を持ち込んでいる。絵の道具を持ち込み制作する方や、家族の写真を飾っている方もいる。片開きのスチールドアなので開け放しにしている方が多く、プライバシーに配慮し暖簾をかけている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様が歩かれる所は手すりが設置されており安全に移動が可能です。浴室・トイレも案内板があり、声掛けだけで分かる方もいます。手すりも設置されています。		

事業所名	花物語 いちがお
ユニット名	いちがお 3F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に根ざした事業所作りを基本に、理念にもある「その人らしさを大事に」を常に考え実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事や包括等の行事を把握し積極的に参加し、また運営推進会議時に情報収集し参加の旨を伝えている。 民生委員の協力も得られている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会を通し近隣との協力関係を積極的に行い、また施設を知ってもらう為、見学会をオープンにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催し施設での生活の様子、出来事を報告している。報告だけではなく、参加者の方々から意見、要望を頂きサービス向上に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括の職員にも運営推進会議に出席して頂き情報を共有して頂き意見交換をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	本人らしく自由に生活をして頂いている。 事業所内のミーティングでも理解を深め随時研修を行っている。また玄関の施錠に関しては事務員がいる時に関しては施錠してない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待については、常日頃ミーティングで指導している。 研修も行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後も外部研修の参加を含め、職員間で話せる場を設けて行きます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご入居の際の契約は、家族が理解されよう分かりやすく説明し、不安が無いように入居出来るように対応しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時はその都度、家族とコミュニケーションを図り意見、要望を頂き解決に努めています。その内容は申し送り時、連絡ノートを活用し伝えていきます。面会の少ない家族には、定期的に意見書を送り対応しています。意見箱の活用もしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回必ずスタッフ会議を開催し報告・連絡・相談を行っています。スタッフの意見、要望を聞き出来るだけ反映できるように努め、風通しの良い職場作りを目指しています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	仕事の効率化を図る為、備品整備を行い職場環境を整えている。職員の処遇改善についても、給料水準の見直し等を行った。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の研修等を行い個々にスキルアップ出来る様実施しています。また会社で研修センターを設け、新人研修、スキルアップ研修を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	社内の他施設の研修を設けていますが、今現在は他施設への研修は行っていない状態です。今後は他施設へ研修できるように時間を作り実施して行きます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に十分なアセスメントをとり、スタッフ全員に把握して頂き入居後の生活が安心安全に生活して頂ける様支援しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の要望、家族の要望を十分に理解・把握し本人にとってどのような生活が一番良いかを考えながら関係を築いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族、入居者様が何を望んでいるか見極め計画を立てている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人らしい生活、普段の生活をして欲しい。その為には出来る事は自分でして頂くようお願いする。利用者様は人生の先輩である事を踏まえて行動をしています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在の状況を家族に説明し、利用者様の情報を共有し利用者様・家族の要望を聞き支えています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間は基本的に決められていますが、家族の事情によっては時間外も可能な事は説明しております。外出・外泊も積極的に行って頂ける様にお願いしております。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションは常に皆と一緒に出来るように（散歩・トランプ等）声掛けを行っていますが、個々の気持ちを尊重しながら支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了されても、家族からの相談があった場合は対応しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者様の個々の思いを傾聴し出来る事は実施しております。難しい部分に関しては、家族と相談、またはミーティングを通して解決に努めております。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケース記録と一緒に、個人の経歴等を一緒にファイルし、情報を共有し今後のサービスの参考にしております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々申し送りを行い、情報の共有を行っております。また申し送りノートも活用し、漏れのないよう実施しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	主治医・看護師・ケアマネ・介護師等、様々な意見を反映し介護計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録においての変化等は、申し送り・連絡ノート・会議等で共有し常に改善しようと、介護計画の見直しに活かしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会の時間外の認可や体調不良にての通院対応は、必要に応じて支援、サービスを行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会・民生員を通じてボランティアの活動を推進しています。また地元の行事に参加しています。		
30	11	○かかりつけ医院の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られなかったり、かかりつけ医院と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週で往診対応をしております。また体調不良等の場合は隔週対応にこだわらず、その都度対応をさせて頂いております。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は週2回対応されて降ります。その中で利用者様の健康管理を行い、介護士からの情報・気づきを把握した中でドクターに報告し適切な往診を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は、病院関係者・家族と連絡を密にとり情報を把握し、また定期的なお見舞いを実施しています。退院時には立会い、今後のケアの部分で、病院関係者から情報収集しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に関しては、契約時に説明し早期に主治医と家族と連携しながら対応するように心がけています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応に関しては、研修を行い周知徹底しています。また緊急の対応のマニュアルを作成し、皆が見える場所に掲示しています。	/	/
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内に食料・水の備蓄をしている。職員には年2回の避難訓練を計画実施し非難方法、非常口の確認をしている。近隣の学生寮及び自治会を通じて協力を呼びかけています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	当施設の理念（その人らしさを大事に・尊厳を守る・安心して生活できる場所）を常に考え支援しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お手伝いを頼んだり、レクリエーションに参加して頂く際は本人の意思決定を尊重した中で決めるよう支援して行きます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	利用者様の日々の状態を把握しながら、利用者様のペースに合わせて、何をしたいかを気づき、考えて支援して行きます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度訪問美容を利用しています。また更衣時も、本人の意思決定に任せ好きな洋服を着て頂く様支援してます。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人が出来る範囲で食事の野菜切・盛り付け・食器洗い・食器ふきを手伝っていただいております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量に関しては、日々摂取量を記入し、チェックしています。摂取量の少ない利用者様に関しては工夫し摂取して頂いております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員の声掛けにて誘導し口腔ケアを行っています。また週に1回訪問歯科により口腔内の診察を定期的に行っております。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者様の状態を把握した中で、その人に合ったサイクルを見つけ出し声掛け誘導を行っている。またカンファ等を活用し改善方法を考えています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師・看護師等の連携で、薬で対応しています。また家族からの情報で、飲み物を飲む事で便秘が改善される事を聞き実践しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の際は声掛けを行い、必ず本人の意思決定で行っています。また、入浴の際は必ずバイタル測定を行い体調を見て入浴をしております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転しない為、また夜安眠していただく為、適度なお昼寝をして頂くよう支援しています。また夜間安眠して頂くよう定期巡視を行い、室温・安全のチェックを行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	予薬時必ず二人で薬を確認し服薬時、名前・日付・何時の薬か？をチェックし服薬しております。またもう一人のスタッフは、与薬者を目で追い、本人に服薬をさせているかを必ず確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯干し・洗濯物たたみ・料理の準備等、本人の意志を確認しながら気分転換が出来る様支援しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事の予定を決めて、出来るだけ戸外での行動が出来る様支援しています。また近くの公園へ散歩をかねてコンビニで買い物をするよう支援しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っていた利用者様がいましたが、家族と相談しお預かりしています。時々散歩がてら買い物をする時は事務所より立替たり、若しくは本人のお金で買い物をされ自分で払って頂いております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設へ本人宛の電話があった場合は取り次いでいます。本人から電話の希望があった場合は事務所より電話をしています。（携帯を持っている方もいます）手紙が届いた場合は本人に渡しております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を味わえる行事や、レクリエーションを行った時の写真はリビングに張り出し、皆さんで見られております。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	窓際にソファを置いて新聞を見たり、1Fの共用部分に椅子・テーブルを置き、周りには、観葉植物や生花を飾り、少しでも癒しになれるよう工夫しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内のレイアウトは本人、家族の要望に応じています。持ち込みに関しても制限はありません「危険を伴う物（火器・貴重品）に関しては例外で持ち込みを断る場合もある。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様が歩かれる所は手すりが設置されており安全に移動が可能です。浴室・トイレも案内板があり、声掛けだけで分かる方もいます。手すりも設置されています。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 花物語 いちがお

作成日 26 年 4 月 7 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		昨年同様に地域との関わりが不足している。	地域との連携を今以上にもち、関わって行く。	地域の年間行事を把握し、それに合わせて時間を作り参加して行く。	12ヶ月
2		外出の行事が不足している。	最低でも年4回は外出での行事を行う。	季節ごとの外出予定表を作り計画をたてる。また計画書も早めに作成をする。	12ヶ月
3		リビングでのレクリエーションの不足。	日々必ずレクリエーションの時間を作る。(10分~15分)	日々の業務の中にレクリエーションの時間を設け、必ず実施しなければ成らないと言う意識をつけさせる。	12ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。